

釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会
第 20 回再生普及行動計画ワーキンググループ議事要旨（案）

日時：2011 年 4 月 26 日（火）18:00～20：00

場所：釧路地方合同庁舎 4 階第 3 会議室

【出席者（敬称略）】

＜個人＞ （出席者 50 音順）

- ・清水 信彦
- ・新庄 久志 釧路国際ウェットランドセンター主任技術員・環境ファシリテーター

＜団体＞

- ・釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 鈴木 久枝
- ・釧路市民活動センターわっと 藤田 育久
- ・釧路シャケの会 小杉 和寛
- ・こどもエコクラブくしろ 近藤 一燈美

＜再生普及小委員会 委員長＞

- ・高橋 忠一 （個人）

＜関係市町村＞

- ・釧路市 環境保全課 湿地保全主幹 菊地 義勝
- ・標茶町 企画財政課観光振興係 中島 吾朗
- ・鶴居村 産業課商工観光係 佐藤 大輔

＜関係行政機関＞

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 所長 野口 明史
- ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 河川環境管理官 花巻 雅人
河川環境係長 法村 賢一
- ・林野庁北海道森林管理局
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター 自然再生指導官 朝倉 基博
- ・北海道総合振興局 保健環境部環境生活課自然環境係 石井 弘之
- ・北海道教育庁釧路教育局 会田 大祐

＜ワーキンググループ事務局＞

- ・環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
国立公園・保全整備課課長補佐 高見沢 敏男
釧路湿原自然保護官 竹中 康進
釧路湿原アクティブレンジャー 小林 美保
- ・財団法人北海道環境財団 事務局次長 久保田 学
清水 美希

【議事概要】

（事務局）第 20 回再生普及行動計画ワーキンググループ（以下「行動計画 WG と表記」）を開催する。

冒頭、新規参加の方（環境省釧路自然環境事務所 高見沢氏、国立公園ボランティアレンジャー 鈴木氏、釧路湿原アクティブレンジャー 小林氏）自己紹介。

(新庄座長による進行)

議事1 「ワンダグリンドプロジェクト 2010」の報告について

○資料1-1、1-2に基づき、事務局より説明。昨年度のワンダグリンド・プロジェクトの取り組みは45団体76取組みとなる。報告書は去年同様の作成を考慮しており、発行は6月上旬を予定。自然再生事業・協議会等の概略、地図を新たに加える他、第2期行動計画の開始に合わせデザインを一新する。

議事2 2010年度再生普及行動計画WGの取組み報告

○資料2に基づき、事務局より説明。前回WG(11月)からの取組みを紹介する。第6回ワークショップではハンノキの林からスゲの湿原への移り変わりなどをみながら冬の湿原を歩いた。森林再生事業をわかりやすく紹介するWebページでは誰が何をするのかなど、初めての人が見ても理解できるように具体的に作成した。また、釧路町役場において確定申告時に自然再生事業に関するパネルを展示し待ち時間などに見てもらい、それなりの成果があった。

議事3 「ワンダグリンドプロジェクト 2011」の応募状況について

○資料3に基づき、事務局より説明。今のところ38団体66取組みの応募がある。ハートンツリーの1団体が新しい取組みである。新しい取組みを随時募集しており、候補者がいればお知らせいただけたらと考えている。

議事4 2011年度再生普及行動計画WGの予定(案)

○資料4に基づき、事務局より説明。事務局のみで行うより、取組みの成果があがるようにするため、WGメンバーの方にも協力いただければと考えており、WGメンバーに協力してもらいたい取組みに記号「◎」をつけた。今年度はワンダグリンド・プロジェクトの取組み団体と推進サポーターに対して、登録証明・PRに活用して頂きたい、登録証を発行したい。第2期行動計画英語版パンフ2000部作成する。森林再生小委員会以外の小委員会の取組みに対しても、Webページ作成などでの情報発信を進めていきたい。一般市民が自然再生に参加するための取組みについて、他の小委員会とも相談しながら検討していきたい。またミニフィールドワークショップのようなものの実施を検討しており、実施の際は連絡する。

<ワンダグリンド登録証について>

(座長) 今年度の新たな取り組みを中心に説明いただいた。ワンダグリンドの登録証については如何か？

(委員) 配布サンプルは実物大か？

(事務局) A4を考えている。

(委員) ラミネートもかけるとよい。色彩はかわるのか？

(事務局) 如何様にも。

(委員) これも一種の情報発信といえる。

(委員) アピールするために店頭に貼ってもらうなら、見たときに「登録証」「承認証」等が大きく目にはいるようにした方がいい。

(委員) 毎年更新するのか？

(事務局) ワンダグリンドは毎年募集するので出す。サポーターは継続なので1回発行を考える。

(座長) WG参加者もサポーターとして発行すればよい。

- (委員) 言われるように、目につくようにすることが必要。
- (委員) 「これ何？」と思ってもらえるとよい。これだけでは興味を引かないので、「登録証」であることの明示を。デザインも淡くてインパクトがない。
- (座長) 高橋委員長の印も重要。本当は額があるとよい。ボール紙の台紙でできるとよい。
- (委員) 登録者には特典はあるのか？
- (事務局) 例えば、通し番号の発行を考えており、キリ番には何かプレゼントする、というようなことも考えられる。メリットを是非ご提案いただきたい。
- (座長) カヌーツアーに招待 or 割引などがあるとよいかもしれない。
- (委員) 取組みのまんじゅうを割引にする等。
- (座長) そのような特典を提供する、という参加の形もある。
- (委員) ものを作って売っている人はいないのか？
- (座長) 鶴居のチーズやどさんこ牧場も声をかけよう。
- (委員) 人の目につくところに出すなら、ワンダグリンダ・プロジェクトの名だけでも英語での表記もあるとよい。釧路湿原はラムサール登録湿地でもあり、海外からの来訪者への PR もしたい。

<FWS、現場見学会について>

- (座長) FWSに加えてミニ見学会をやるとのこと。
- (委員) 具体的にどこがあるのか？
- (事務局) 達古武、雷別、幌呂、久著呂、茅沼、広里が考えられる。
- (座長) 広里は車道からで中に入るのは一般的ではない。茅沼はすでにカヌーのコースになっており、冬は SL、夏はノロッコ号での来訪を宣伝している。幌呂、久著呂は簡単に入れる。

議事5 情報発信の拡充に向けて

○資料5に基づき事務局より説明

前回 WG で情報発信の重要性があらためて指摘され、続く普及小委員会では、対象別に戦略的に発信する必要性が言及された。今回はその方法を具体的に考えたい。事前に、みなさんに具体的に活用すべき機会についてアイデアをいただいた。そうした機会についてのいただいた提案をホワイトボードにお示しした。今日はテーブルごとに、対象者の関心の有無、地元 or 来訪者の 2 軸の模造紙を用意した。ホワイトボードから機会のアイデアの紙をとり（早い者勝ちで）、模造紙の座標に置いたうえで、実際に何ができるのかを提案していただきたい。新たに出たアイデアについては、ポストイットにどんどん書いてほしい。その作業の後に、テーブルごとに効果のありそうな、取組みを 3 つ選んでほしい。それを事務局だけではなく WG メンバーのみなさんと一緒に、実際に進めて行きたい。

《検討 約 30 分》テーブルごとに作業

《検討発表》各テーブル毎、約 10 分 ワークの結果をシェア

<第2グループ>

- (委員) 発想が枯渇し、パターンが少ない。
- ①地味ではあるが、関心の有無に限らず、地域の郵便局のフロアを使い、ポスターや写真ははらせてもらってはどうか。
 - ②町では秋を中心にお祭りがあるが、そこに何らかの形が入って、パネルを展示した

り、ささやかなイベントをしては。そこで何か湿原に関わる技術をもったお年寄りなどに参加してもらって、湿原のイメージを伝えてはどうか。仕事を終えた人がおもちやづくりの修行をしたり、おばあちゃんがフェルトでフクロウを作ったりしている。そうした人に協力してもらえるとよい。

③町内会の回覧板の活用。以前に大学で連合町内会に働きかけて署名を大量に集めたことがある。

④観光で来る人は釧路湿原に対する意識や関心が高く、その人たちに対して、ホテルなどに協力をお願いしてイベントやツアー案内等を行ってはどうか。

⑤市場や土産屋も同様に利用できないか。何かのついでにポスターがあったり、パンフレットがあったりすれば持って帰れる。

⑥ザリガニチップス。阿寒で作っている、かっぱえびせんに似た味のウチダザリガニ入りチップが売っている。

⑦道の駅にはいろんな人が来るので、パンフを置いたり催しの案内をさせてもらえないか。道東にはたくさんある。

(座長) 祭り、郵便局、道の駅、高齢者の生きがいとつながること、町内会、ホテルの情報コーナーなどの提案である。道の駅は地域の宣伝をするところで、中札内などは全国的に有名。

〈第3グループ〉

(委員) 地元の関心の有無、地元外の関心の有無にわけて考えた。イオンや鶴居のチーズは関心があり、どのようにどうそこに引き込むか。

(委員) ①標茶の「森と川の月間」(5月)は、清掃や植樹、フォーラム等、自然再生と関わり深いはずだが、町民はそこを感じていない。チラシやパンフで、その関わりを町民に伝えたい。町長の出発式の挨拶で触れてもらえるとよい。

②「山ガール」等女子が活躍しているので「フィールド女子」などのネーミングで女性雑誌に取り上げてもらう。それにより釧路湿原を全国に知ってもらい、お金や時間、行動力ある女子に訴えることができる。

関連して「ミスやちぼうず」などのアイデアも。

③道新全道版に載るような取組を行う。

(委員) ④全国のイオンに依頼してポスターを掲示したりしてもらう。釧路ならではの取組もあるとよい。

⑤鶴居村で作っている卵形チーズ(タンチョウの卵)は、箱を工夫して湿原で卵を抱くタンチョウをデザインする。

⑥FMくしろ湿原塾で強インパクトの出演者を呼ぶ。

⑦役場のスペースを活用して展示等を行っては。

⑧「ふるさと祭り」はもともと物産中心だが開発局が事業紹介のブースを出したりしているのでワンダグリンダもできるとよい。

⑨名刺に貼るシールを作成することも考えられる。

(委員) ⑩23年続いている釧路湿原ボランティアレンジャーの会のクリーンウォーク(清掃活動)は市民に定着している。以前は一般市民も参加していたが、今はケガの責任から関係者だけの参加なので、一般市民にも参加してもらい、清掃活動後の特典として、特別の観察会を実施したい。定点解説は負担だが、継続していきたい。

⑪市内の大学・高専は本州からの学生が多いが、教授と連絡を取って湿原を味わう機

会を設けたい。

- (座長) ミスヤチボウズ、フィールド女子、インパクトのある人などの提案。既存のイオンや商品を再生と連携を上手くしていくことが、関心のない人を連れてくれる。大学の本州からの学生を連れて行ってはという提案。

<第1グループ>

- (委員) 関心の有無より地元内外を中心に考えた。

①岩保木水門からカヌーでMOOまで下る。JR ノロッコ号にカヌーを積めるとよい。駅には湿原で見られる生物を生きたまま展示する等、JRの協力が要る。地元外からだと業者をお願いしてカヌーの調達が必要だが、「トレイン&カヌー」という発想もある。高齢者が多くなるなかで、道外からの来た人のカヌー希望に応えるため大人数用カヌーの確保や安全性の向上をはかる必要がある。耐震岸壁には「飛鳥Ⅱ」を誘致しようとしたが、この客は知床までツアーをしたりする。しかし、5～600人のうち150人程度はシルバー世代で、そうした強行ツアーには行けない。そうした人が湿原を見たいといったときに応えられるとよい。

②釧路空港の機内アナウンスが「タンチョウ釧路空港」になった。(旭川はカムイミントラ、高知は坂本龍馬)これを「釧路湿原～」、「美しい自然の～」という言葉をつけ加えられるとよい。航空会社にアピールしては。

③「どんぱく祭」でウチダザリガニを食べてもらい、湿原の恵みを知ってもらう。

④「カモメンジャー」のショーは勧善懲悪でこどもを喜ばすが、この際、海からやってきたカモメに悪役になってもらい、湿原までやってきたカモメがオオジシギがやっつける。飛来した渡り鳥が自分たちの係留地を守ってほしいと訴え、子供に湿原の大切さを学んでもらう。

⑤メディアとして、Fitと釧路新聞は有効。

- (委員) ⑥わっと主催「チューリップ花フェア」(5/29～)でパンフを置いたりしてアピールする。

⑦釧路川の釣具店で釣り人にパンフをレジに置いたりしてアピールする。釣り人は魚の減少等に敏感であり、アピールできるとよい。

- (座長) カヌーに注目し、シルバー世代も楽しめる機会をつくること、お祭りを活用してキャラクターを作ってみる、釣り人向けの啓発など。釧路の最初に100万円かけて釧路湿原の啓発ビデオを作ったのは実は釣具店だった。

- (委員) 5月5日に幣舞橋で稚魚25000匹放流する。使っていない鯉のぼりを集める記事を道新、釧路新聞、FMくしろに掲載してもらい、MOOで掲げる。湿原と釧路はつながっていることを伝えるのが活動。イオンでも300匹を育ててもらい、2000人から言葉をいただいた。

⑧日常生活の中に自然を持ち込みたい。北大通りの車線を縮小し、ヒメリンゴを植える。岩保木水門まで緑の回廊でつなぎ、釧路湿原とつなぐ。気仙沼の水は水の色だが、釧路川の水は黒い。それでいいのか。そんなことを考えながら、1匹のシャケを飼い、自然を生かしたまちづくりをする。

- (座長) これらの提案を踏まえどうまとめるか。

- (事務局) 楽しいアイデア、おどろくアイデアが出た。全部いっぺんにはできないが、事務局とワーキングメンバーが一緒になって進めていきたい。

- (座長) 議事要旨を送るときに是非この結果を整理して添付していただきたい。

その他

○高橋先生が環境省「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰「自然ふれあい部門」の表彰を受けることとなったことの報告。

○以前アクティブレンジャーだった磯野氏がウガンダ・エンテベで野外飼育の動物園で活動していることの報告。子供達へのガイドや出前講座等をがんばっている。

(事務局) これで第20回行動計画WGを終了とする。

以上

